

奈良・藤原宮跡
ふじわらきゅう

- 1 所在地 一・二 奈良県橿原市高殿町
- 2 調査期間 一 二〇〇一年(平13) 一〇月～二〇〇二年二月
二 二〇〇二年一〇月～十二月
- 3 発掘機関 奈良文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 田辺征夫
- 5 遺跡の種類 宮殿跡・都城跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～藤原宮期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

今回の調査は、藤原宮南東隅に所在する近世の溜池、高所寺池の堤防改修工事に伴うものである。二〇〇一年度に池の東岸北半分・北岸・西岸北部の一八三〇㎡を(飛鳥藤原第一一八次調査)、二〇〇二年度に西岸南部の一〇〇㎡を(飛鳥藤原第二二四次調査)それぞれ調査した。

調査の結果、五世紀後半から藤原宮期の遺構を検出した。ここでは藤原宮直前期及び藤原宮期の遺構の概略を以下一括して記す。

藤原宮直前期。藤原宮内先行条坊道路として、第一一八次調査で東二坊坊間路・六条条間路とそれらの側溝を検出した。その他、溝・土坑・井戸などを検出した。

藤原宮期。藤原宮南面大垣・内濠・外濠を検出した。南面中門(推定朱雀門)以東で初めて藤原宮南限施設を確認できたことになる。大垣と内濠はともに先行条坊道路である東二坊坊間路の東側溝SD六〇三一を埋め立てた後に造営されていたが、外濠は同東側溝と併存していた時期があることが判明した。その他、大垣内で藤原宮東南官衙に関係する溝・塀・建物などを検出した。また、第二二四次調査区南端で六条大路北側溝を確認した。

木簡は、第一一八次調査で藤原宮南面内濠SD五〇二の堆積土から三点(全て削層)、第二二四次調査で藤原宮直前期の土坑SK九七四〇から一五点(全て削層)が出土した。

南面内濠SD五〇二は大垣の北一一・七m(四〇尺)にある素掘り溝で、幅二・二・七m深さ一・一～一・三m。下層に砂やシルトなどの流水堆積層があり、上層は埋め戻した土層であった。

土坑SK九七四〇は、藤原宮南面外濠と六条大路北側溝のほぼ中間、高所寺池西岸の調査区を西に拡張した部分で検出した。土坑の東半分は攪乱により削平されており、検出できたのは全体の四分の一である。直径約三mの円形とみられ、残存する深さは約〇・九m。埋土に炭・木屑・籾羽口などを含む。藤原宮造営にともなう廃棄土坑であろう。

8 木簡の釈文・内容

一 第一一八次調査

(1) ☐ (男カ) 091

第二二次調査

(1) ☐ 三口 091

(2) ☐ 人下寸主 ☐ 091

(3) ☐ 十カ ☐ 四 ☐ 091

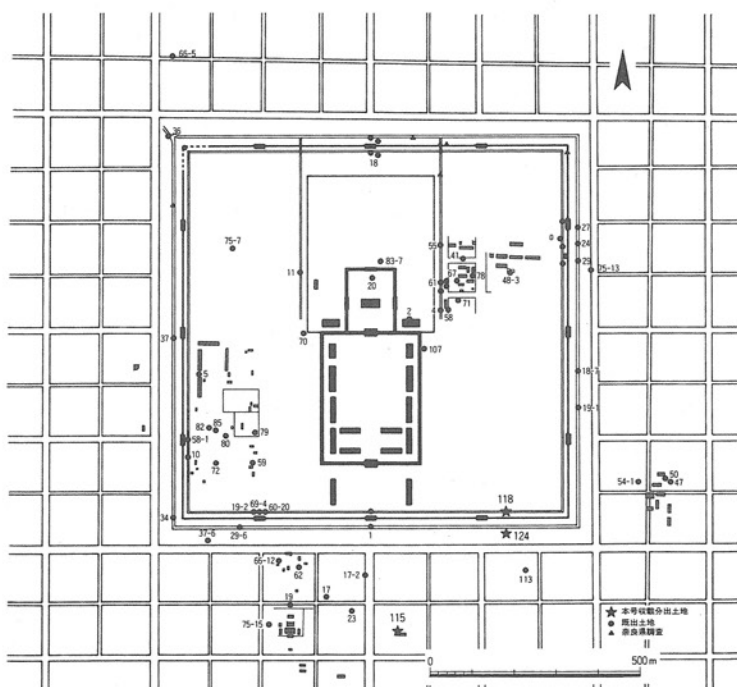
(2)の「寸主」はカバネのスグリであろう。「村」の偏を省略した形である。藤原宮跡・平城京跡出土木簡に類例がある。なお、本木簡に記される「主」の字体は、藤原京左京七条一坊西南坪より出土した「逐陳(陣)」「帰忌」などの暦注を記す木簡(本号27頁59)の裏面にもみられる。(3)の三文字目は単位ともみられるが釈読できない。

9 関係文献

奈良文化財研究所『奈良文化財研究所紀要二〇〇三』(二〇〇三年)

同『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木簡概報』一七(二〇〇三年)

(竹内 亮)



藤原宮及び周辺木簡出土地